

# 全国学力・学習状況調査

稲築東中学校

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

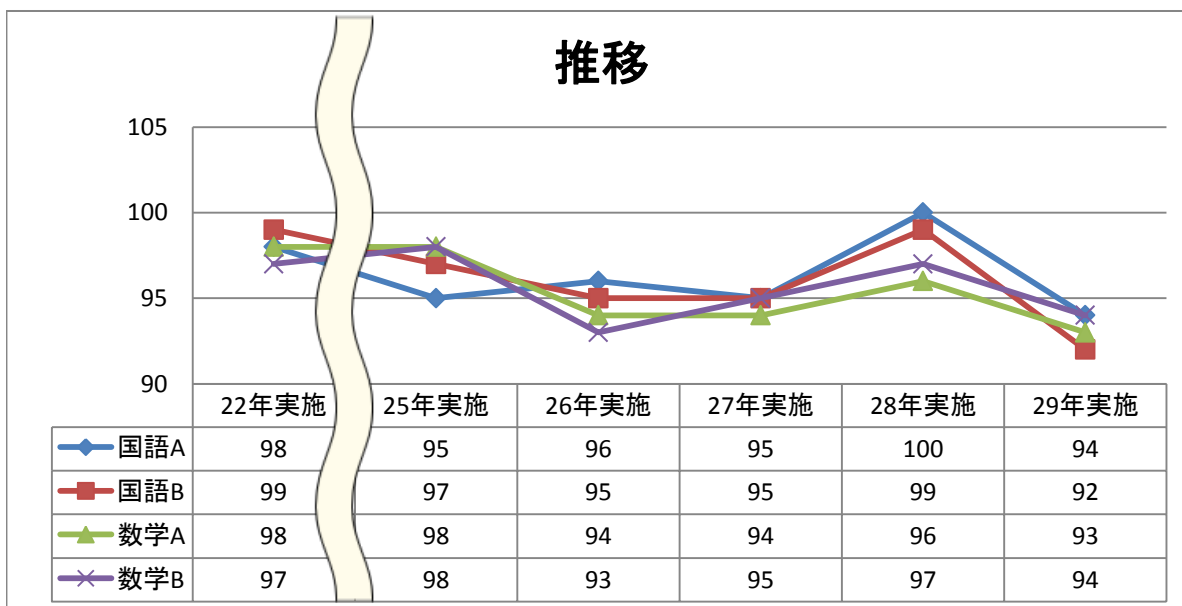
【中期指標】 H32年度の全国学テで、各教科区分全てにおいて全国を母集団とした福岡県標準化得点が(100)になる。  
 【短期指標】 H28年度2年次の県学力調査の福岡県標準化得点をもとに、H29年度3年次の全国学テの福岡県標準化得点を次の数値以上にする。  
 国語A 85.0 国語B 88.3 数学A 71.3 数学B 76.0

## 3.指標に向けての取組

○国語 小学校全学年の漢字に取り組みせるとともにペア学習等を工夫し、取り残される生徒をつくらぬような学習指導を行った。さらに基礎的・基本的な事項(漢字等)を定着させるため小テストを定期的実施するとともに授業内容を反映させた宿題・週末課題を設定した。また、多様な問題に慣れるよう補充学習で問題に取り組ませた。  
 ○数学 毎日、課題を出すことにより基礎・基本の定着につながった。確認テスト、単元中テストの実施により、既習事項の定着がはかれた。定着していない生徒には何度も再テストし、定期考査の得点アップにつなげることができた。2年生でTT授業を実施し、学力が厳しい生徒に1対1対応ができ、基礎・基本の定着が厳しい生徒の学力の底上げにつながった。

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	94	92	93	94
嘉麻市	96	95	94	95
全国	100	100	100	100



## 5.各学校における分析

【国語】 目標数値に対して、国語A +0.8ポイント 国語B -13.3ポイント

目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えを求める問題や文脈に即して正しく漢字を読み書きする問題は全国の正答率を上回っているものもある。話し言葉と書き言葉との違いを理解したり、書いた文章についての助言をもとに客観的に自分の表現を直す問題など、今日的な(ピサ型、活用的な)多様な問題に対して特に弱いようである。

【数学】 目標数値に対して、数学A +5.8ポイント 数学B -0.3ポイント

1年間取り組んだ入試の大問1の最初の10問のような問題は、ある程度定着が見られる。授業ではその日の授業内容はできるようになっているが、その後の学習を家庭学習で行えていないので長期的な定着に至っていない。  
基礎・基本を定着させることに時間がかかり、活用問題への経験値を高める時間が取れず、伸びていない。

## 6.各学校における今後の取組

【国語】 2学期は小テストを定期的を実施し、基礎的・基本的な事項を定着させていく。また、1学期に引き続き、漢字などの基礎学力をつけるものや、授業内容を反映した宿題を設定する。ふくおか学力アップ推進事業に係る非常勤講師を3年生に配置し、担任と協力して習熟度別学習に取り組む。全国学テの過去問や類似問題を冬期休業中の課題として取り組ませる。1・2年生は随時、既習事項の復習の機会を設け、来年度に備える。

【数学】 2学期は基礎・基本の定着のために、確認テストや単元テストをこまめに実施する。また、全国学テの過去問や活用力診断テストの教材集などを週末課題や長期休業中の課題として取り組ませる。年度末に向けては、3年生は2学期までに教科書の内容を終わらせ、3学期は習熟度分割で入試対応の取組を行う。1、2年生は随時、既習事項の復習の機会を設け、来年度に備える。

【家庭学習】 計画的な宿題(課題)の提示と自学ノートの取組を継続する。1年90分、2年100分、3年120分以上の家庭学習時間の確保をめざし、8割以上の生徒が達成するよう指導する。週末の家庭学習時間を平日+60分とし、月曜日の提出率を8割以上にする。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、嘉麻市研究指定校事業を展開する。

基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。